

1 学校教育目標

- 自ら考え進んで行動する子 ○ 心も体も鍛える子 ○ 仲良く助け合う子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校の学習課程を計画的に実施し、児童に確かな学力を培う学校 ○ 児童が生き生きと学び、自らの成長を実感できる学校 ○ 保護者や地域と力を合わせ、児童の安全と健全育成に努める学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業に集中して取り組み、学ぶ楽しさを味わえる児童 ○ 挨拶、靴揃え、廊下歩き等の品格のある行いを身に付けた児童 ○ 友達と仲良く、協力して活動することで、自分のよいところを伸ばす児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童のよさや課題を的確に捉えて、褒めて伸ばす教師 ○ 協働意識をもち、学校経営に貢献する教師 ○ 保護者・地域と協力し合って、児童の健全育成に努める教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 令和4年度の区学力調査では、通過率（2科平均）が区平均を1.9ポイント上回った。
- コロナ感染対策により、教育活動や学習形態を制限・変更しながらも、授業時数を確保し、教育課程を実施した。
- 特別支援の2教室（難聴・言語障がいと情緒障がい）設置校として、きめの細かい個別支援を行っている。

【前年度の成果】

- 大型ディスプレイやタブレット端末を活用した授業やリモート活動を進めて、ICT教育を展開した。
- 心の三名人や学習の約束に取り組んで、児童に品格ある行動を定着させた。
- 調査の結果を基に、学年の重点種目を決めて取り組み、体力・運動能力の向上を図った。

【今年度の課題】

- AIドリルを活用し、学習の個別化を図る。
- 品格ある行動を広める。
- 柔軟性と持久力を養い、運動の楽しさを味わわせる。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	◎	○	○
2	品格向上	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
昨年度に引き続き、区学力調査の通過率が区平均を超えるよう、基礎・基本を大切に授業を行い、児童に学ぶ楽しさを味わわせる。		今年度の区調査通過率（区平均を2科目とも）上回ること 2月調査の平均正答率が4月の結果を上回ること		今年度の通過率は国語85.3、算数80.8で、国語は区平均を1.6上回ったが、算数は3.0届かなかった。		学校全体の2教科通過率は区平均を0.7ポイント届かなかった。特に計算の定着が弱い。		▲	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	計算 コンテスト	2～6年	年2回 7月と 12月	四則計算に関するテストの実施(BSタイムや家庭学習の活用)	テスト結果の回収と個人の表彰	テスト結果が80点以上の児童がクラスの8割以上	7月のテストでは68%、12月では74.1%だった。	かけ算九九に躓いている児童も多く見られた。	○
継続	漢字 コンテスト	2～6年	年2回 9月と 2月	学習した漢字の読み書きに関するテストの実施(BSタイムや家庭学習の活用)	テスト結果の回収と個人の表彰	テスト結果が80点以上の児童がクラスの8割以上	9月の結果は61.4%、1月の結果は61.2%だった。	先生たちの意識改革、練習期間が足りなかった。	●
継続	ALタイム	2～6年	週2回 15分 間	児童用タブレットのAIドリルを活用した個別最適な学習(5教科)	AIドリルの管理ツールを使った学習状況の把握	ALタイムの実施回数が前期、後期ともに25回	ALタイムの実施回数は2年以上で12月までに35回以上を超えた。	ALタイムにタブレット端末を活用することはできるが、今後効果的な活用の仕方に工夫が必要である。	△
継続	ステップアップタイム	全学年	週3回 15分 間	1年：MIMと文字の学習 2年以上：新出漢字の学習	自己申告面接時の担任報告	年間90回	ステップアップタイムの実施回数は2年以上で12月までに65回以上をクリアした。	次年度も漢字ドリルを使用した新出漢字の学習を継続する。	○
継続	読む力の育成	全学年 国語	毎授業 通年	①教科書の音読 ②国語辞典の活用 ③教師やデジタル教科書による範読	児童アンケートの回答	Yes回答が児童の8割	読書の肯定群は70.1%だった。読書の貸出冊数はR4年度よりも115冊増えた。	タブレットを使うようになり、図書館利用とのバランスを考える必要がある。	●

重点的な取組事項－２		品格向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童の規範意識や帰属意識を培うことで、自己肯定感を高め、品格ある態度や行動を身に付けた児童を育成する。		児童アンケート（中・高学年対象）で各項目に Yes と回答する児童の割合が、対象児童の 8 割を超える。	品格に関する児童アンケートの 5 項目の総計が、92.7%で目標を超えた。	規範意識や帰属意識は定着し、落ち着いたある教育活動が進められている。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習や生活のきまりである「弥生刈刈」を週目標や授業で取り上げ、きまりを守る態度を養う。	児童アンケートで、「きまりを守っている」「学習に集中している」と回答する中・高学年の児童が 8 割以上	弥生小スタイルや学習のきまりは、教室に掲示して、児童がいつでも確認できるようにして意識付けし、全教職員でも声掛けをしている。職員夕会でも定期的に確認をしている。	「きまりを守っている」とアンケートに回答した肯定群は 90.6%で「学習に集中している」の肯定群は平均 93.3%だった。共に 9 割を超えて、高い意識が定着している。	弥生小スタイルや学習のきまりは、全教職員が同じ方向で指導しなくてはならないので、学年間や夕会等で常に意識を高めていく。	◎
学級活動や縦割り活動を通して、学級や学校の一員であることの意識を培う。	相手の嫌がることをしない」「友達のよいところを見つけている」と回答する中・高学年児童が 8 割以上	低学年は帰りの会で「今日のキリさん（友達による行動評価）」を発表し、中高学年は週末の帰りの会に「ナイスプレー（善行）報告会」を開く。教員がよい所を見つけ、その場で褒め、全体でも価値付けをする。	「相手の嫌がることをしない」の肯定群は 90.6%で「友達のよいところを見つけている」は 83.7%だった。「良い所を見つけている」は 83.7%だった。	帰属意識を高めることで、相手を思いやる心が概ね育っているが、心が育っていない児童も少なからずいる。今後も、いじめの発生を予防する指導を続けていく。	◎
心の三名人（挨拶・廊下歩き・靴揃え）に取り組み、自己肯定感を育む。	児童アンケートで「三名人を心がけている」と回答する中・高学年児童の割合が 8 割以上	三名人行動の重点期間を設けて『三名人カード』に自己評価し、それを担任が精査して、全校朝会でクズ賞を授与する。	「挨拶・靴揃え・廊下歩きの三名人を心がけている」の肯定群は 83.3%だった。項目では挨拶・靴揃えは 90%以上であったが、廊下歩行が低かった。	三名人の取り組みは、しっかりと意識されている。廊下歩行については、他校の取組や情報を精査し、本校できそうな手だてをしていく。	○

重点的な取組事項－3		体力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力・運動能力調査の体力合計点の伸長を目指して、多様な運動に取り組み、運動する楽しさを味わわせる。		学年別男女別 12 の集団が体力調査の 8 種目すべて区の T スコアを上回り、児童アンケートで運動の質問に yes と回答する中高学年児童の割合が 8 割以上	測定 8 種目の T スコア（偏差値）において、8 種目中半分以上が区平均を上回った集団は 12 集団中 9 集団だった。	1 年男子、1 年女子、6 年女子が T スコア（偏差値）の結果が良くなかった。	▲
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1) 多様な運動に取り組み、体力・運動能力を伸ばす。	学年別男女別の 12 集団が 8 種目すべて区の T スコアを超える。	体力調査の弱点種目は、対象児童に補充の運動（トレーニングタイム）を行う。持久力を高める業間運動を行う。特に長座体前屈、女子のソフトボール投げの向上を図るよう、体育の準備運動等で行う。	区の T スコアを超えられなかった種目と集団数は、長座体前屈が 10 集団で突出して多かったが、他にもソフトボール投げが 7 集団、区平均に届かなかった。全体的に女子のスコアが低い。	20m シャトルランは業間体育で学級ごとに取り組んだ効果が表れた。柔軟性を高める運動は取り組んだが、取り組みが学年・学級で統一されていなかった。	▲
(2) 友達と協力したり、競い合ったりして、運動する楽しさを味わう。	児童アンケートで「体育（運動）が楽しい」と回答する割合が 8 割以上	どの種目も授業の最初に自分のめあてを確認させ、友達との関わる場面を設けながら運動に取り組みさせる	「体育は楽しい」と答えた肯定群は 89.5% だった。「楽しくない」は 2.6% だった。	運動の楽しさを味わうために、管理職による授業参観・授業改善を行い、全員が参加する体育の授業を実践できるようにする。	○
(3) めあてをもって運動し、運動後には、取り組んだことを振り返る。	児童アンケートで「運動のめあてをもって取り組んでいる」と回答する割合が 8 割以上	授業の終末に、低学年は「がんばったこと」、中高学年は、運動のめあての「振り返り」を発表させる。	「めあてをもって運動した」割合は 95.5% で、授業後に振り返りをさせることで、意識付けができていた。	低学年からめあてをもって取り組む授業をスタンダードとする授業展開をしていく必要がある。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【重点的な取り組みー1 学力向上】

- ①区学力調査の2科目平均通過率は83.1で、区全体の83.8を0.7ポイント下回りました。
- ②家庭学習は、保護者のアンケートでは80%、児童では70.1%、家庭学習の習慣については意識の違いが出ました。実際の提出率は89.8%でした。
- ③7月の計算コンテスト(2~6年)の合格率では、68%、12月(1~6年)では74.1%だった。9月の漢字コンテスト(2~6年)は61.4%、2月では61.2%(1~6年)でした。読書貸出冊数は12月現在で13284冊で昨年度より115冊増えました。
- ④区調査(算数)や単元テストで、すばやく正確に解答できるよう、BS(ベータックス株)タイムに計算能力を高める指導を行います。
- ⑤授業を「主体的・対話的で深い学び」とするために、足立スタンダード型授業を全学級で実施します。
- ⑥「タブレットを使った学習は楽しい」の肯定群は92.1%、「タブレットを使った学習は分かりやすい」の肯定群は89.5%。引き続き効果的なタブレットの使用を行います。
- ⑦1年は、ひらがなの定着と言葉の理解を図るため、MIM(特殊音節の定着と語彙の獲得を図るトレーニング)学習に力を入れます。
- ⑧2~6年は、主要5教科の基礎基本を定着させるため、タブレット端末でAIドリルを活用した学習を行います。

【重点的な取り組みー2 品格向上】

- ①「きまりを守っている」肯定群の児童の割合は、87.1%で、規律ある行動の心がけが定着しています。
- ②「友達との関わり」の肯定群の割合は、で、概ね友達とのよい関係ができています。
- ③「挨拶、靴揃え、廊下歩きの三名人として行動している」肯定群の児童の割合83.3%で、一層の定着を図っていきます。

【重点的な取り組みー3 体力向上】

- ①中休みのT(トレーニング)タイムを活用して、弱点種目であるソフトボール投げ・長座体前屈等に取り組みましたが、結果が向上しなかった。
- ②今年度調査でも、長座体前屈(柔軟性)・ソフトボール投げは区平均を下回ったので、来年度も引き続き、重点種目として取り組んでいきます。
- ③中休みには、らんらんランニング・短縄大縄・鬼ごっこ遊びなどの心肺機能を高める運動に、期間を設けて取り組みます。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

【次の時代をたくましく生き抜く力を育む学校をめざして】

本校は足立区立学校として、区の教育大綱を具現化するために、学力、品格、体力の3つを柱にしたバランスの良い教育活動を行います。また、児童の人格完成を目指し、将来、社会の形成者となり得るために必要な資質を育みます。それには、教職員、保護者、地域が一体となって教育活動を推進することが不可欠です。本校が「児童が通いたいと思う学校」、「保護者が我が子を通わせたいと思う学校」、「地域にとって誇りであり、愛着を感じる学校」となるよう、校長はリーダーシップを発揮して、三者の力を結集していきます。

弥生小学校はこの地域の地区立学校として地域の中心となり、保護者・地域・学校と連携、協力して児童の成長を応援していきます。日頃より親父の会、ASYの方々・町会の皆様にご協力を頂いております。そして、学校行事後のアンケートでは多くの保護者の皆様からお褒めの言葉、励ましの言葉、改善のご要望をいただいております。学校は常によりよいものを求め、改善を図ってまいります。令和6年度もこれまで同様に本校の教育活動に対してご支援をお願い致します。(R5年度保護者アンケートの保護者や地域と共育体制を確立するように努めている。94.5%)

(3) その他(学校教育活動全般について)

- ①教職員・児童には「自分たちの学校は自分たちで作る」を意識させ、「自分で考え、自分で判断し、自分で行動し、責任をとる」ことの大切さの呼びかけます。
- ②委員会活動や行事においても、児童からのアイデアを多く取り入れ、児童主体で運営していきます。
- ③3名人(挨拶・靴そろえ・廊下歩行)の徹底を図り、品格ある児童を育成します。
- ④朝のスタートを円滑にするための登校時間の設定。時間を守る意識の向上を図ります。
- ⑤帽子をかぶるなど、学校のきまりを守り、自分たちでさらによくしていこうとする資質を育てます。
- ⑥コミュニティ・スクール(学校運営協議会設置校)として、PTAや開かれた学校づくり協議会と連携して、児童の健全育成や安全確保、特色ある教育活動の充実を図ります。
- ⑦近隣の5つの保育施設や幼稚園(城北)、中学校(四中)と連携して、一貫性のある教育活動の推進、情報の共有し、見守ります。
- ⑧特別支援の2教室(難聴言語と情緒障がい)設置校として、児童に対する個別の支援の充実。どんな児童にも教育の機会を作ります。
- ⑨「保護者として子供の学校での様子をよく把握している」の肯定群は84.2%、児童は「お家の人をよく話を聞ってくれる」の肯定群は93.6%、児童の「先生方はよく話を聞ってくれる」の肯定群は93.3%。学校が児童・保護者にも安心して過ごせる場所になるように努めていきます。